

平成24年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

事業名	中山間地域総合整備事業(国補)		事業箇所	北杜市長坂町・小淵沢町		地区名	八ヶ岳西部	事業主体	山梨県												
(1)事業着手年度	H10年度	(2)事業期間	H10年度～H19年度	(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	3,005百万円														
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等															
<p>本地区は、山梨県の北西端、八ヶ岳の南麓に位置し、八ヶ岳湧水群などから供給される恵まれた農業用水による水田農業、冷涼な気候のもとで高原野菜の栽培や乳質の高い酪農業など恵まれた自然条件を活かした農業が営まれている。</p> <p>しかしながら、中山間地域特有の急峻な地形や担い手の高齢化、後継者不足などに起因し、耕作放棄地の増加などの農業生産上の課題を抱えており、地域力の低下が懸念されていた。</p> <p>これらの課題を解決し、地域の活性化を図っていくためには、効率的な農業を行うための農業生産基盤の整備、定住環境を向上するための生活環境基盤の整備にくわえ、都市農村交流を促進するための拠点整備を総合的に整備できる本事業を実施した。</p>						省略															
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果																					
(事前評価未実施)																					
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 <input type="checkbox"/> 副次目標 ・集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ・農業用排水能力の向上 <input type="checkbox"/> 副次効果 ・農林産物の販売促進																					
(7)整備内容(目標達成の方法)																					
用排水路	(9路線)L=4,343m	農道	(9路線)L=8,168m	ほ場整備	(2地区)A=8ha	農地防災(1箇所)	N=1箇所	農業集落道	(10路線)L=6,502m	集落排水(2路線)	L=697m	集落防災安全	N=6基(防火水槽)	農村公園	(3箇所)	A=23,700m ²	活性化施設	(1箇所)	A=1,000m ²	情報基盤施設	(1箇所)

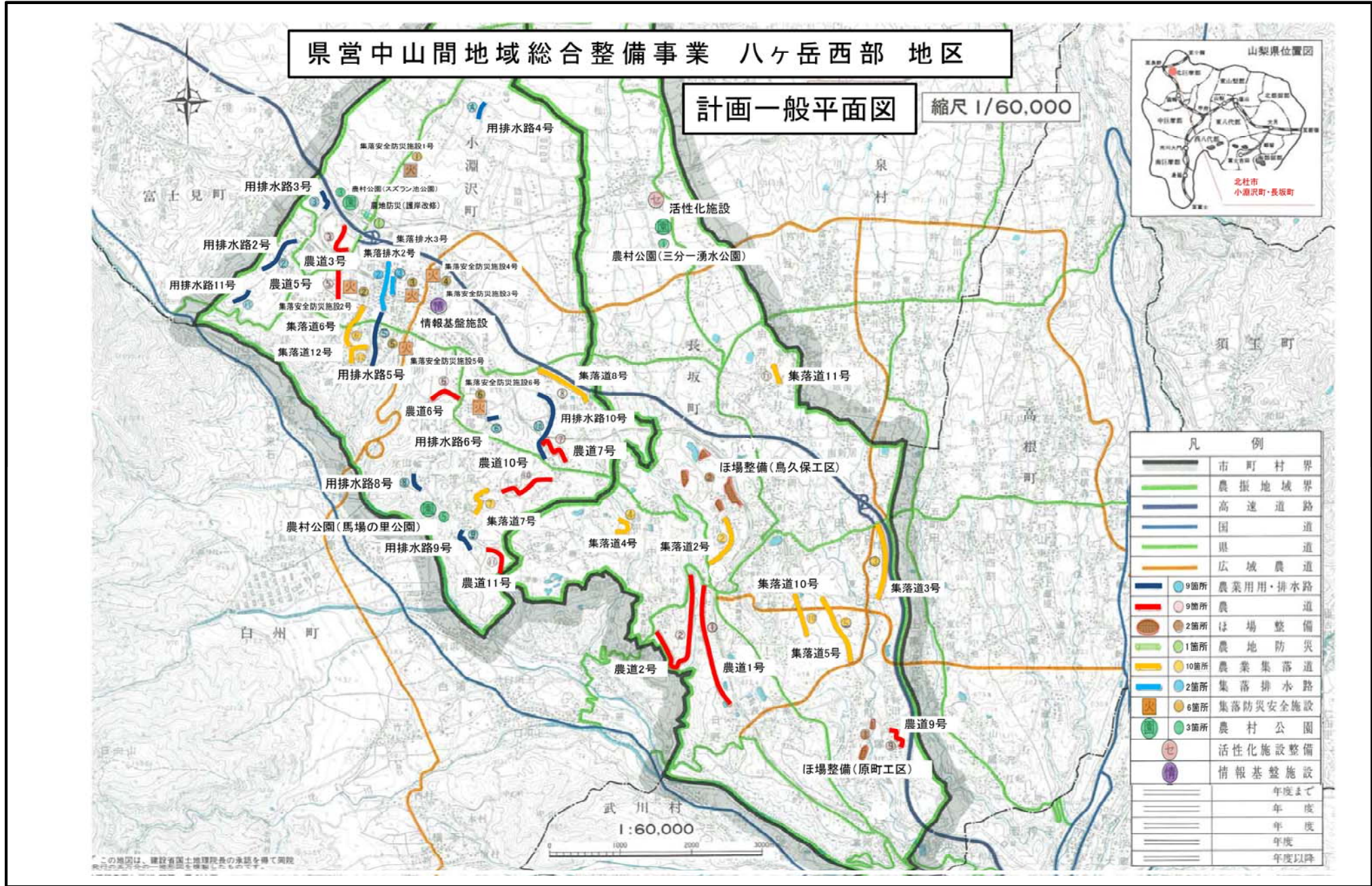
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 農道、用排水路の整備により、県内有数の生産量を誇る高原野菜の生産及び品質向上と省力化が図られるとともに、集落道、集落排水の整備により生活上の課題を解消し、住環境の改善に努めた。 また、農村公園、活性化施設整備等により都市住民との交流の場及び地域住民の憩いの場を創設できた。</p> <p>① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>1,203千円/ha→設定せず</td> <td>1,241千円/ha</td> </tr> <tr> <td>生活環境施設受益者数</td> <td>241人/ヶ所→設定せず</td> <td>265人/ヶ所</td> </tr> <tr> <td>農村公園受益者数</td> <td>673人/千㎡→設定せず</td> <td>752人/千㎡</td> </tr> <tr> <td>交流施設利用者数</td> <td>55人/日/施設→設定せず</td> <td>201人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業所得の増加額が、基準値1,203千円/haを上回っている。 ・ 生活環境施設の利用者が、基準値241人/施設を上回っている。 ・ 農村公園受益者数が、基準値673人/千㎡を上回っている。 ・ 交流施設の利用者数が、基準値55人/日/施設を上回っている。 <p>② 副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>59.1%→設定せず</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>農業用排水能力の向上</td> <td>1.00→設定せず</td> <td>1.37</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の完成により14.7kmの道路が幅員4m以上に改良され、幅員4m以上道路延長率が100%となった。 ・ 用排水路の整備により、用排水能力向上率が1.37となり、基準値1.00以上を満たしている。 <p>③ 副次効果 農林産物の販売促進</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林産物の販売促進</td> <td>本事業で整備した活性化施設（三分一湧水館）内に農産物直売所が開設され、農産物の販売促進につながった。</td> </tr> </tbody> </table>	指標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,241千円/ha	生活環境施設受益者数	241人/ヶ所→設定せず	265人/ヶ所	農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	752人/千㎡	交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	201人/日/施設	指標	着手時点数値等	評価時点数値	全幅員4.0m以上道路延長率	59.1%→設定せず	100.0%	農業用排水能力の向上	1.00→設定せず	1.37	項目	内容	農林産物の販売促進	本事業で整備した活性化施設（三分一湧水館）内に農産物直売所が開設され、農産物の販売促進につながった。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,538百万円</td> <td>3,005百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H10～H18</td> <td>H10～H19</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,426百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,461百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.02</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.18</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。 ※ 平成16年度再評価地区 総事業費3,370百万円に見直し</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総事業費：用排水路の整備延長、農村公園の整備箇所の見直しによる事業費の減 ・ 費用：用排水路の整備延長の見直しによる事業費の減 ・ 便益：物価変動などによる便益額の増 <p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤整備を進めたことが、耕作放棄地の発生防止につながったため、地域の良好な農村景観が保たれている。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集落排水が整備されたことにより、農地や宅地への浸水被害が減少した。 ・ 農村公園が整備されたことにより、散策道等として多くの地域住民に利用されている。また、都市住民の訪問もあり、憩いの場として利用されている。 ・ 活性化施設が整備されたことにより、地域の女性や高齢者の活動機会が増え、地域に活力が出てきた。 ・ 防火水槽が整備されたことにより、火災時の防火能力が向上した。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用排水路の実施にあたり、住民の理解を得られた路線で、環境に配慮した自然型水路による整備を実施した。 	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	3,538百万円	3,005百万円	工期	H10～H18	H10～H19	経済効率性	費用	1,426百万円	便益	1,461百万円	B/C	1.02			1.18
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																														
農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,241千円/ha																																														
生活環境施設受益者数	241人/ヶ所→設定せず	265人/ヶ所																																														
農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	752人/千㎡																																														
交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	201人/日/施設																																														
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																														
全幅員4.0m以上道路延長率	59.1%→設定せず	100.0%																																														
農業用排水能力の向上	1.00→設定せず	1.37																																														
項目	内容																																															
農林産物の販売促進	本事業で整備した活性化施設（三分一湧水館）内に農産物直売所が開設され、農産物の販売促進につながった。																																															
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																														
総事業費	3,538百万円	3,005百万円																																														
工期	H10～H18	H10～H19																																														
経済効率性	費用	1,426百万円																																														
	便益	1,461百万円																																														
	B/C	1.02																																														
		1.18																																														

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	<p>(理由) ・既設路線の活用や計画規模の見直しを行った結果、事業費の減となった。</p> <p>(具体的反映策) ・事業計画策定時に、ワークショップなどを通じて、既設路線の活用や計画規模の決定などを明確に提示し、住民との合意形成に努める。</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(理由) ・今回の事後評価において、増加所得額、施設利用状況等十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>・なし</p>

3.添付資料シート（1）



①農業用排水路

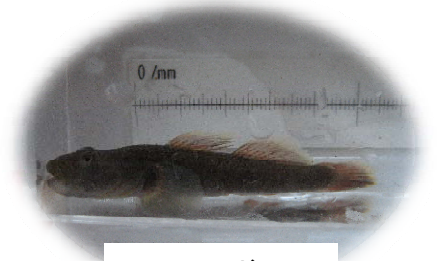


生態系等の自然環境に配慮した自然型水路を整備し、水性生物の保全に努めた。

生息が確認された水性生物



トノサマガエル



ヨシノボリ



着手前
未舗装で幅員が狭小であったため農作業に支障をきたしていた。

②農道

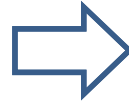


完成後
農耕車が容易にすれ違える幅員を確保し、農作業の利便性が向上した。また舗装されたことにより荷傷みも減少した。道路側溝も整備され、農地への雨水の流入が防止できた。



狭小な水田で耕作機械が入ることが困難であった。また耕作を放棄する農地も増加していた。

③ほ場整備



基盤整備を進めたことで農作業環境が向上し、また、耕作放棄地の発生防止につながったため、地域にとって良好な農村景観が保たれている。

⑤農村公園(すずらん池)



地域住民や都市住民の憩いの場が創設された。

⑥活性化施設(三分一湧水館)



恵まれた自然環境を活かし、都市住民との交流を促進するための拠点施設として重要な役割を担っているとともに、直売所として活用することで地域住民の活性化に寄与している。